



## ベゴニア ～「わかった」「できた」「来てよかった」 の思いがあふれる補習校



### 異学年交流の取組・インプットとアウトプット ー小1国語「音読発表」ー



補習校では小1から中3まで年代の異なる児童生徒が学んでいますが、学校として異学年の交流もとても大切な活動として捉えています。先日は、入学したばかりの小学部1年生の子どもたちが、高学年の子どもたちに国語で学習した教材の音読発表を行いました。初めて入る高学年の教室で、先輩を目の前にして発表するのは、きっと緊張したと思いますが、小1の子どもたちは一生懸命に音読練習の成果を発揮していました。

発表を聴いた高学年の子どもたちからは「入学したばかりなのに分かりやすく音読していてとてもよかったです」「大きな声でしっかりと発表していて上手でした」「日本語が苦手な子どもがんばって発表していました」など、温かい感想が伝えられ、小1の子どもたちもとても満足な様子でした。

これらの活動には、学んだこと(インプット)を発表する(アウトプット)という流れの中で学習効果も期待されます。今回は音読の発表ではありましたが、「人に伝える」ことを意識して学ぶことで、インプットの質も自然に高まることにつながります。聞く側にとっても友だちの発表から自分を省みてさらに学ぶことができる大切な機会となります。こうした双方向の学びをこれからも大切にしていきたいと思えます。

### カいっぱい走り回りました!ー第1回「校長先生が教えるタグラグビー教室」ー



昨年度に引き続き、今年度も「タグラグビー教室」を実施しました。今回は小3か



ー今後の予定ー

HP 上は非公開

ら小6の子どもたちを対象に希望者を募り、当日の飛び入り参加を含めて30名近くの子どもたちが参加しました。

タグラグビーは、タックルなどの危険なプレーがなく、誰でも安全に楽しめるスポーツで、日本では学校の体育授業で取り入れられています。腰に付けたタグを取り合いながら、チームでボールをつなぎながらトライをめざす競技で、体の大きさや運動の得意・不得意に関わらずみんなが活躍できる点が魅力です。

はじめての参加の子どもたちもいましたが、すぐにコツをつかみ、フィールドを元気いっぱい駆け回っていました。学年を越えた交流の場としても盛り上がり、笑顔あふれる時間となりました。次回も楽しみにしててください。